

# 連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 担当教員・科目概要

	科目名	概要	担当教員
専門 選択 科目	社会福祉学特殊講義Ⅰ (社会福祉原論)	社会福祉学理論の構成要因である幾つかの主要理論(主体性・共生性・権利性)の哲学的、思想的背景を、ノーマライゼーション原理との関連のなかで講述し、また戦後の社会福祉学理論や現在の社会福祉思想の検討を行い、ノーマライゼーション原理が社会福祉学の基礎原理であることを解明する。	星野 政明
	社会福祉学特殊講義Ⅱ (社会福祉思想論)	思想とは、特定の領域における方法・理論が人間存在全体の視界のなかで関係づけられ更に自己存在の中に根拠づけられているところの、言語作品を意味する。社会福祉が思想として論じられるということは、言語表現としての社会福祉が、人間存在の歴史と将来および自己の現在の使命という視点から、根本的・総合的に理解されるということである。	栗栖 照雄
	社会福祉学特殊講義Ⅲ (社会福祉政策論)	社会福祉にとって「政策」の形成や変遷は大きな影響を及ぼす。この講義では、社会福祉政策における政策原理を確認し、効率・最適性に代表される経済原理と、平等・公正・公平・適切性といった福祉原理とがどのように競合／調和するかについて論じ、行政・政府(公共部門)にとどまらず市民や地域社会・民間団体をも視野に含め、社会福祉政策の主体の問題について政策形成論の見地から考察する。	高橋 睦子
	社会福祉学特殊講義Ⅳ (コミュニティ・ソーシャルワーク論)	福祉分野に限らず「国から地方へ」の大きな流れの中で、地域福祉分野の役割はますます重要なものになってきている。コミュニティ・ソーシャルワークの理論と実践について科学的根拠に基づいた研究を行うとともに、特に「地域とともに暮らす」という流れの中で、地域における実践的課題に対する理論的理解と分析を中心に考察を加える。	平川 忠敏
	社会福祉学特殊講義Ⅴ (障害者福祉論)	「障害」概念の理解を、ICIDHからICFへの流れを視野に入れて検討し、大きく変わりつつある障害者問題について、歴史的背景をふまえて理解を深める。特に日本においては、「措置から契約・選択へ」そして「障害者自立支援法」などに関わる様々な問題について科学的な分析を行い、問題点を明確にし、その「在り方」を考察していく。	山口 洋史
	社会福祉学特殊講義Ⅵ (障害者リハビリテーション論)	リハビリテーションの理念と基本原則、リハビリテーションの各分野とサービス体系、リハビリテーションの過程などについて、障害者福祉領域との関連や最近のこの分野における動向を踏まえて、障害者ケアマネジメント、社会リハビリテーション、地域リハビリテーション、アセスメントとインターベンションを中心にとりあげる。	藤田 和弘
	社会福祉学特殊講義Ⅶ (精神保健福祉論)	精神障害者の社会復帰は、現今の社会福祉施策の上でも重要な分野である。精神障害者の社会適応に際して、その障害が如何なるものか、障害者をサポートするには何が必要か、その障害を改善するために、その本態を知ることは重要である。障害は認知機能、特に注意機能、記憶、行動障害、自己モニタリングの異常、他者の認知、異常体験と複雑で大きい。障害の生物学的基盤、実態、治療法などを論じる。	鶴 紀子
	社会福祉学特殊講義Ⅷ (児童・家族福祉論)	ソーシャルワーク実践においてそのほとんどで「家族」という単位を考慮に入れる。しかし、家族についての様々な視点について整理されていない場合が多い。そのために、視点を整理し、その中で社会福祉としての「家族」を把握することで、ソーシャルワーク実践への応用を検討する。特に、児童の問題を家族ソーシャルワーク(家族療法を含む)の視点から検討することにより、「家族」と援助のための機能を把握する。	杉原 俊二
	社会福祉学特殊講義Ⅸ (国際福祉論)	この講義では、社会福祉の問題群の多層性・複合性を、個別の社会と国際社会の動向と双方の視点から分析する。社会福祉の諸課題について、とくに「貧困、社会的排除、教育、ジェンダーおよびエスニシティ」などの観点から検討する。グローバリゼーションと社会福祉の関係について、アジア諸国と欧米を中心に論考する。その中で、比較研究についての理論的枠組みのバリエーションについても理解を深める。	高橋 睦子
	社会福祉学特殊講義Ⅹ (高齢者健康福祉論)	ヒトは加齢とともに心身の変容をきたし、時を経るに従い個の多様性が展開する。そこには、それまで個と社会との係わりのなかで迎ってきた生活歴の証しがある。今日の高齢化社会を迎え、心身を含めた人の生き様を見ようとするとき、健康や福祉の概念がいかに在るべきか、その多様性の把握、そして理解をもとに熟慮する必要がある。各人の足場により、その構築は姿・形を異にするであろう。そこに新たな学問の萌し、拡がりがある。この観点から高齢者の健康とは、福祉とは何かを問い、新たな視点を導くべく学習を展開する。	永見 邦篤
社会福祉学特殊講義ⅩⅠ (介護福祉論)	介護福祉は「福祉」という非常に広い領域に立脚していると同時に、「介護」という専門化された知識も必要とされる分野である。そのため、社会あるいは自然という環境因子と、心身との関連性を追及する姿勢が求められる。その根源となる考え方は、心身を環境との係わりの中で認識する東洋医学思想の中に根付いていると言える。本講座では東洋医学思想に立脚した視点から介護福祉を捉えることにより、介護福祉の本質を考究することを目的とする。	渡邊 一平	

	科目名	概要	担当教員
	社会福祉学研究法特殊講義Ⅰ (質的研究)	質的研究とは、自称の具体性に即した手法で、観察や面接によって得られたデータに基づく経験科学的なもので、非計量的なアプローチをいう。具体的には、実験的研究状況を設定しないで、観察や面接を重視し記録を作成し、主に質的データである記録に基づいて分析をするもので、記録以外の得られた資料も総合して分析する。こうしたアプローチの基礎的方法について考える。	栗山 和広
	社会福祉学研究法特殊講義Ⅱ (量的研究)	量的研究とはアンケート調査や実験によりデータを収集し、統計解析を行い、研究テーマについて何らかの知見を見出すことである。そのために、1. データの収集法と解析法、2. 仮説検定理論、3. 因子分析、4. 太田のエコスキャナーによる生活支援決定、5. PIE(Person In Environment)systemによるアセスメント、6. Prologによる推論のアセスメントへの応用を学習する。	錦織 毅夫
総合科目	社会福祉学特殊研究Ⅰ	本研究は、各院生が研究活動を行うために必要な研究の手続き、法王、研究活動の過程などの指導を含め、各院生が提示する特化した研究課題に対応のできる研究指導を個別的・継続的に行う。さらに研究の進捗状況に応じた指導を行いながら、論文作成に関する具体的な助言・指導、また、博士論文作成にいたる個別指導を行う。	小川 芳徳 栗栖 照雄 正野 知基 高橋 睦子 永見 邦篤 藤田 和弘 山口 洋史 横山 奈緒枝
	社会福祉学特殊研究Ⅱ		
	社会福祉学特殊研究Ⅲ		